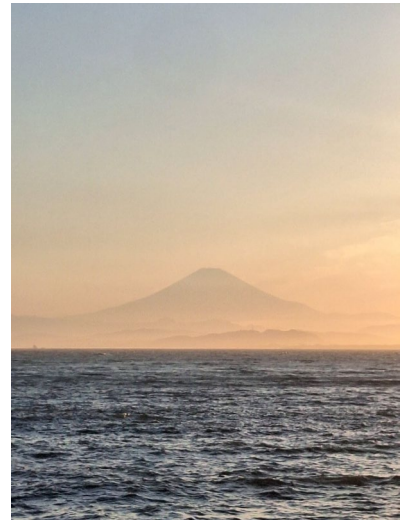


あっという間の4か月でした。初めて東京に着いた日、満開の桜を見ながらスーツケースを引いて歩いたことを、今でも昨日のここのように思い出します。今回の留学は、初めて家族と離れて暮らす経験でした。日本へ来る前は、SIMカードや銀行口座、生活用品について何度も調べました。しかし、実際に来てみると、携帯電話の契約のために3軒のお店を回ったり、食器を買うだけでも家族に相談したりしていました。失敗したくなくて、小さなことでもなかなか決められませんでした。今では自分で料理を作り、関西へ4日間の一人旅にも挑戦できるようになり、少し成長できたと感じています。

留学で一番苦労したのは、日本語で話すことでした。来たばかりのころは、お店で商品の場所を聞くこともできず、スマホに文章を書いてから「あの、すみません……」と話しかけていました。英語で返事をされるとさらに慌ててしまい、「ありがとうございます」と言うだけで終わってしまったこともあります。

そんな私を成長させてくれたのがお茶大での授業です。「中級A会話」では、柏先生からオノマトペや誘い方、お願いや謝り方など、生活ですぐ使える表現を学び、日本語で話す自信ができました。「日本語演習 4A」では、「留学後も日本で生活が続けたいか」というテーマでインタビューを行いました。当時は私自身も悩んでいましたが、多くの留学生も同じ気持ちだと知り、安心することができました。

また、国際センターの文化教室では、浴衣や生け花、茶道、食文化を体験して、日本文化の魅力をもっと好きになりました。



そして、一番の宝物は世界中から来た留学生との出会いです。みんな日本語で一生懸命話し、お互いに支え合いながら過ごしました。4か月という短い時間でしたが、この出会いと思い出は一生忘れません。

東京で過ごした時間は、私にとってかけがえのない経験でした。支えてくださった先生方や友人の皆さんに、心から感謝しています。